



はじめに

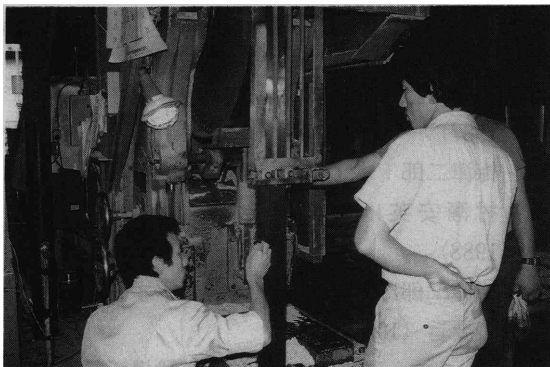
去る 8月 6,7日に檜山管内厚沢部町において、「'88道南ふるさと森林おこし」が行われました。町始まって以来という大規模なイベントで、当日は NHK FMの公開放送、花火大会、いかだ下りなど森林に直接関係ないものも含め全部で38に及び各種催しが行われました。林産試験場からは、今回「林産技術交流プラザ」と「公開講座」をこの祭りのなかに組み入れる形で参加しました。今までにこのような大きなイベントとタイアップして行うことはあまり例のなかったことですが、林産試験場をより多くの方に知ってもらう意味で非常に効果があったと考えられます。

以下、当日の様様を写真を交えて紹介します。

林産技術交流プラザ

巡回技術指導

6日午後に厚沢部町内のヨシモト鷲木材、鈴木木材の2工場を巡回し、製材、乾燥の機械診断な



巡回技術指導（鈴木木材）

ど技術指導を行いました。巡回した工場では、普段技術交流の機会がないので種々、意見の交換をしながら熱心に指導を受けていました。ただ、今回の祭りに各工場の人が木工品の即売等で参加するため時間的な折り合いがつかず、多くの工場を回れなかったことは反省材料として残りました。

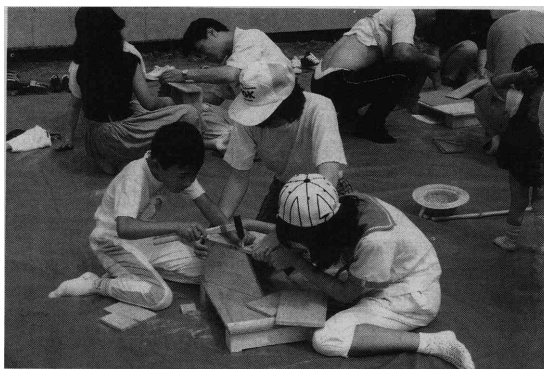
林産技術交流会

7日午後から檜山営林署の会議室で行われ、参加者は28名でした。なかには木工品の即売会の合間を縫って会場にかけつけてくれた方もいました。

会は、山科普及係長の司会進行により、主催者を代表して林産試験場長、地元業界を代表して檜山地区林産振興会長のあいさつのあと、「間伐材の有効利用」、「木材の漂白・調色」、「木材の乾燥技術」という課題で、それぞれ河原田主任研究員、梅原研究職員、奈良乾燥科長が話題提供を行いました。そのあと、乾燥の問題を中心に活発な質疑応答が続き予定していた時間を若干オーバー



林産技術交流会



親と子の木工教室

するほどでした。

公開講座

親と子の木工教室

親子を対象とした木工教室は、7日10時30分から4回に分けて行われました。当日は子供の夏休み期間中とあって約150組の親子が参加、たいへん賑わいとなりました。

参加者は希望によりカセットケース・巣箱のいずれかを作製しましたが、炎天下のなか親子がひとつの物を作るのに一所懸命汗を流している光景は、非常にほほえましく映りました。

展示

林産試験場の試験研究の成果を広く知ってもらおうとパネルを中心とした展示を行いました。ただ、ほかの機関も含め展示場所が木工教室会場の後ろ側にあたるために、人の通りからはずれてい



林産試験場紹介ビデオコーナー

たことから、思ったほど人の出入りがなかったのは残念です。

また、森林展示館のなかでは常時林産試験場の紹介ビデオを放映、こちらの方は多くの方に林産試験場の存在・内容を知っていただきました。

おわりに

「林産技術交流プラザ」は、今年はあと10月に留萌で開催されます。昭和59年度から始まったこの事業もこれで石狩を除く支庁全部を回ったこととなります。これで「林産技術交流プラザ」は一応収束し、来年度からは形を変えて行うことになるとは思いますが、これまでに行ってきた経験を踏まえ、現在検討を進めているところです。いずれにしても、各地域の林産業界の発展につながるような内容にしていきたいと考えていますので、ご意見、ご要望等ありましたらお寄せいただきたいと思ひます。

また「公開講座」も、一般市民の皆さんに木材に対する理解を深めてもらうことを目的に今年で3年目になります。現在までにいろいろな場所で行ってきた企画を組んで行ってきましたが、我々としてもどのような形のものがよりベターなのかまだ試行錯誤の段階です。来年度は場内に新しい展示館もオープンする予定になっていますので、これらを利用してよりいっそう効果的なアピールを考えています。

(林産試験場 普及課)